
夏・あいつ・危機到来

空空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夏・あいつ・危機到来

【Nコード】

N4184Q

【作者名】

空空

【あらすじ】

夏が来た。

あいつが来た。

ついでに世界の危機もやってきた。

「啓太ってさ、普通だよな」

「そうかな？」

本から顔を上げ、首をかしげて笑って返す、そんな様も普通だった。

山口啓太は普通に普通な高校生だと思う。

身長体重エトセトラ。運動、勉強、笑いのセンス。年には一回風邪を引き、お小遣いは月二千元。流行りの映画は普通に見るし、テスト前には「全然勉強してないよ」なんて文句も吐く。

しいてあげるなら、飼育委員なんて係をやっていることくらいか。うちの学校は各クラスで金魚を飼っていたりする。

少し気になって聞いてみる。

「ねえ、なんで飼育委員なんてやったのよ」

「簡単そうだったから、かなあ」

……やっぱりこいつは普通だ。

そして私の周りの世界も普通だ。

夏が近づいてスカートを薄手のやつに変えたこと。それがこ一番のニュース。

少し早く起きすぎた蝉が、一匹だけ鳴いている。
そろそろ夏到来だ。

『宇宙人です！ 宇宙人が地球に現れました！』

啜っていた海老フライを落としてしまう。そしてそのまま開いた口がふさがらなかった。

『みてください！ あの大量の球体を。おそらくあれが彼らのUFOだと思われます。彼らは三日以内に完全降伏の意を見せなければ、地球に対して攻撃を仕掛けると言っています』

背広の男が唾を飛ばしてバレーボールみたいなUFOの群れを指さす。確か彼は、今朝までは首相の沖縄訪問とワールドカップが開かれるなんだかの国の様子を真面目顔でしゃべっていた人ではなかったか。

二階のベランダから外を見ると、遠くの空にふにやふにや動くバレーボールがあった。

かくして地球VS宇宙人の戦争が始まった。

連日連夜のテレビではどのチャンネルでも、この地球の存亡をかけた漫画みたいな争いを放送し続けている。空を浮かぶUFOの技術は地球にはなかったが、どうやらそれなりに善戦しているようだった。もしかしたら、相手も宇宙の長旅で疲れているのかもしれない。だけど確実に、少しずつ、地球防衛軍は宇宙人に押されていた。

「なんでも宇宙人は軍事関係の基地とかばかり狙ってるらしいよ」本から顔を上げた啓太がそんなことを言った。

いきなりやってきて宣戦布告したくせに、妙に律義な連中だ。だけど実際それは事実らしく、クラスの間人は目に見えて減っていた。このあたりは米軍の基地が少し離れた場所にあるので、疎開したらいい。

「少し、寂しいよね」

苦笑いした啓太が、再び本に視線を落とす。返却期限が迫っているらしい。

なんでこいつは、こんなにもいつもどおりにしていられるのだろう。

戦争の慌ただしさに叩き起こされた蝉が、街中に軍歌を轟かせている。

ついに学校は休校となり、家では両親が忙しく荷物をまとめ始めた。田舎の親戚の家に越すらしい。

三軒隣の啓太の家へ行ってみる。

「啓太なら、飼育委員の仕事があるからって、学校に行ってたわよ」
出てきたおばさんが、頬に手を当てて困ったように言う。
何をそんなに普通に行っているんだ、あいつは。

なんだか我慢できなくなって、私は学校へと走った。

「あれ、どうしたの？」

啓太はまるでたまたま本屋で会ったとでもいうように目をぱちくりとさせた。

「なんで……そんな風にしてられるの」

責めるような口調になってしまったが、そんなことは気にならない。

「地球が終わっちゃうかもしれないんだよ！ 私たちみんな、宇宙人に捕まって、殺されちゃうかもしれないんだよ！ なんでそんなに普通にしてられるのよ！？」

私が息を荒げると、啓太がえさ箱のふたを閉めながら、

「大丈夫だよ」

一言。

なんで？ そう聞こうとした私の肩に、遠慮がちに手が置かれた。
「もうじき、終わるんじゃないかな？」

蒸し暑い、初夏の午後だった。

その日の晩、戦争はあっけなく終わりを迎えた。

宇宙人はぴたりと攻撃を止めた代わりに、一つのメッセージを送ってきた。その内容は正式には公開されていないが、なんだか宇宙にはない病気にかかってしまい、地球には住めないらしいとか何とか。

なんともまぬけな話だ。

というか、前に流行った映画が確かそんな話だった気がする。地球の細菌に勝手にやられて、すぐ帰っていく宇宙人の話。

そしてまた学校が始まり、いつもの生活がやってくる。

隣には新しく借りた本に目を向けている啓太の姿。

数週間のドタバタ騒ぎの中で、別に世界の危機を救ったりなんかしてないけれど、啓太は普通に普通の生活をしていた。

ん？　これって普通、なのか？

「ねえ、なんで啓太は宇宙人があんなになるって分かったのよ？」

啓太は本から目を上げて、こちらを見た。

「みんな、あの映画観てなかったの？」

言った啓太は窓の外を見て、蝉たちの人間讃歌に耳を傾けた。

「うん、もう夏休みだね」

啓太はどこにでもいる高校生と、同じセリフを吐いて笑った。

そして私も笑う。

もしかしてこいつ、

普通じゃなくて、バカなんじゃないだろうか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4184q/>

夏・あいつ・危機到来

2011年1月28日10時19分発行